

## 審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

会議の名称	茅野市博物館協議会専門部会		
開催日時	24年10月25日（木） 午後6時00分～午後8時		
開催場所	八ヶ岳総合博物館 研究室		
出席者	沖野部会長 北沢副部会長 石森委員 岡本委員 小池委員 茅野委員 花里委員 浜委員 両角委員 鶴飼幸雄文化財課長 若宮八ヶ岳総合博物館長 大谷博物館係長 柳川博物館係主査		
欠席者	名取委員		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
若宮八ヶ岳総合博物館長	1 開会（博物館係長）  2 館長挨拶 9月20日（土）に博物館協議会の研修で飯田市の博物館を見学したが、行けなかった委員もいるので、感想を話したい。自分が見学したところでは、飯田市歴史研究所は、後世に自分たちの歴史を残していくというポリシーを感じた。整理がどんどん進んでいく様子もを見せてもらった。寄託資料については、整理が済んだら返却し、整理が済んだものは公開していく所を見学した。市民研究員育成についての話も聞いて、大変参考になった。飯田市美術博物館は展示室が5つもあり、常設展は自然と人文があり、美術はその都度入れ替えているようだが、特別展に力を入れており、最近の博物館の流れで、飯田はそれを先取りしてやっているということがうかがえた。学芸活動をする部屋が充実していた。伊那谷自然友の会という市民グループが博物館に関わっている様子をうかがい参考になった。飯田市の見学を踏まえて、科学教育振興についての議論をお願いしたい。		
大谷係長	3 第4回茅野市博物館協議会専門部会 会議結果報告書について 第4回の会議録を初めて提示したため、1週間に内に訂正点があれば、連絡をしていただきたい。第3回までの報告書については異論がなかったので、公開していきたい。		
大谷係長 沖野部会長	4 協議 資料の確認 研修で飯田の博物館の見学をした委員から感想と、茅野市に生かせる点について意見を述べてもらいたい。後から行かなかった人からの質問をいただきたい。その前に事務局から補足する点はないか。		
大谷係長 北沢副部会長	視察資料の説明 飯田市は下伊那地方の中心地で、歴史的に文化が集中しているのは大きな強みだ。諏訪地方はそれぞれの自治体ごとで活動しているので、大きな		

	<p>事が集中的にできない。飯田市の美術博物館や歴史研究所の設置時期を見ると、良い時期に作ったと思う。歴史研究所は生涯学習が盛り上がった時期に市制 70 周年がきてはじまり、これを契機に充実させていった、旧上郷村支所にはもともと飯田市教育委員会があったが、教育委員会が移転するに際して上手く活用して設置できた。飯田市と較べてみても仕方がないので、茅野市らしい市民と連携がとれるような施設にした方が良いのではないか。八ヶ岳総合博物館ができた当時、生涯学習都市として茅野市は先進的に活動してきたが、近年は予算が減少してともしびが揺らいでいる。博物館の意義を明確にして、目的に向けて手段をどうしていったらよいかを考えていかなければならない。予算という手段がないから目的が達成できないというのが各自自治体で見られるが、目的と手段を混同しないようにしていかなければならない。八ヶ岳総合博物館には明確な目的があるので、人的な確保、市民の活動をどうしていくか、特に学芸員の増員をお願いしたい。</p>
沖野部会長	<p>飯田市の真似をするわけにはいかないが、いかに良いところは取っていくかということだ。</p>
浜委員	<p>飯田市は博物館の機能の一つである調査研究が充実している。展示だけの博物館ではなく、調査・研究に重点が置かれている。これは、スタッフが充実しているためだ。美術博物館に伊那谷自然友の会があり、ここを拠点として博物館の研究をバックアップしているところが良い。少しでも飯田市の施設に近づけられるような博物館にしたい。</p>
茅野委員	<p>博物館内が整理整頓されていて、調査・研究が良くされている。飯田市は庶務が別にいるが、総合博物館は全部一緒にやっているの、調査・研究ができない。また、任期付き研究員は調査一本でやっていて、市民のゼミの指導をしている。大学の先生クラスの人を迎えていて、研究できる体制ができています。美術博物館内に教室のような場所があり、そこに走査電子顕微鏡があるが、導入された時にはとても利用されるが、2・3年もたつと使われなくなるので、こういうものを研究と結び付けて持続していかなければならない。</p>
両角委員	<p>飯田市は大勢の学芸員・研究員がいて、自分の研究しながら市民が講座などに出てくる環境を作っていると感じた。茅野市は学芸員がいるかいないかという状況だ。学芸員が引っ張っていくというのが現状ではないと感じた。一番必要なのは、学芸員・研究員で、機会を与えてくれる人が必要だ。</p>
花里委員	<p>予算が潤沢にあって学芸員がいるのはなによりの強みだ。伊那谷自然友の会があって研究し、冊子として残せるのはやる気が出てくるのではないか。予算のないところは、一般の人の協力を得て運営していると思った。美術博物館に市民ギャラリーがあるが、成果を来館者に見てもらうのもよい。茅野委員が言った走査型電子顕微鏡は、館員が見たい人に使い方を教えて使ってもらおうということだったが、頻繁に使っていないと使い方を忘れてたりして、使えなくなってしまう。実際に虫の体を電子顕微鏡で見ると、子供にとっては刺激になると思う。子供は毎年変わっていくので、同じ事をやっても喜ぶと思う。その施設に来ないと分からないことについて、先生も、館へ来て学習するのは良いことだと思う。</p> <p>飯田市は市民学芸員が積極的に活動しているが、総合博物館でも個人の</p>

岡本委員	研究を推奨し、研究費を少し提供した方が良い。 学校との関係はどうなっているのか。パンフレットの中には、小中学生を対象とした子供向け講座がしょうかいされているが、その他に何かあるか。
鵜飼幸雄文化財課長	学校と関連する事業内容では、総合博物館の方が取り組んでいる印象があった。美術博物館は市街地に位置しているので、学校が立ち寄りにくいとのことだった。飯田市は広いので、学校が分散しており、美術館へ来て学習するという事はないようだ。美術博物館に隣接して追手町小学校があるが、連携が見えない。
浜委員	美術博物館にはプラネタリウムがあり、飯田市内のほとんどの学校が利用している。美術博物館内の工作室では学芸員が講座を開催し、友の会の人たちが部屋を借りて子供たちに講座を行っている。
沖野部会長 若宮館長	学校に関連させているわけではないのか。 学校に来てもらいたいということだが、学校の利用はないので、パンフレットにあるよう講座がありますよと学校に配布している。
沖野部会長 若宮八ヶ岳総合博物館長	授業に博物館が組み込まれているわけではないのではないのか。 そうだ
大谷係長	プラネタリウムは授業に組み込まれている。なぜ、講座のパンフレットを作ったかと聞いたら、教員の異動が激しいので、講座の内容が継承されないとのことだ。他の理科のカリキュラムを組むのは難しいといのことだ。
岡本委員	学校職員が関わって授業との関連をパッケージとして先に決めていかないと、科学教育センターの立ち上がりをどうやっていくかが、課題になるのではないか。
浜委員	佐久では学校の先生達が博物館をどう利用するのかという授業案・指導案を先生達で作って博物館に提案して利用している。
花里委員	学校で独自にカリキュラムを作ってここを使用するということができないか。
岡本委員	理科学習との関係で考えれば、あくまでも学習指導要領の内容とここがつながるといことと、総合的な学習では、提示されているものに対して、その子が持っている自己課題といったものを、調べていくために、展示物を利用するということがある。一番利用しやすいのは、理科の学習指導要領の関連で、科学センターを使用することだ。
花里委員	学習指導要領を調べて、それに合うようなものの関連付けを探した方が良いのか。
岡本委員	今の展示は高度なので、関連付けしようとするればできるが、これをきちんと整理するのが大事なのかと思う。
沖野部会長	博物館側からの情報がないと、学校側でもどうしたらよいかわからないし、学習指導要領の問題もあるので、お互い話し合っ作り上げていかなければならない。
北沢副部会長 沖野部会長	その場合、学校側で博物館の担当を作った方が良い。 そうでないと正規に話ができない。
浜委員	カリキュラムとして何学年が総合博物館に来るとい話はるか。
岡本委員	特にはないが、坂本養川の展示や汐を見学することはあるが、学校間で

	統一したカリキュラムはないが、学校ごとにそれに類した位置付けはある。学校間の情報交換はしていないのでした方が良くと思う。
北沢副部長	岡谷蚕糸博物館では博物館と連絡取る先生を決めてあった。先生方に来てもらって、学芸員と話し合いの場を持ってもらった。学校と博物館のつながりを、大いに持ってほしい。
沖野部長 茅野委員	茅野委員に対し、これまで、博物館と学校との関係はどうだったか。3年前までは、学校教員と八ヶ岳総合博物館の間で連絡会があった。しかし職員が減員となり手が回らなくなり行われなくなった。
石森委員	飯田市の研究員・学芸員が気になる。任期付き職員の人材ローテーションはどうなっているのか。人材の養成はどうなっているのか。
鵜飼文化財課長	大学の助手や非常勤クラスの人が研究員になっているようだ。その後、その人が大学の専任になって、研究所を出る形になっている。役所の異動とは違う。
石森委員 鵜飼文化財課長	自分の研究をして、他にポストがあれば、出るという形か。飯田市歴史研究所の所長が大学の先生だったので、その関係で、人材を呼んできているのだと思う。
小池委員	飯田市は博物館が充実されると思うが、展示とフィールドがここでは課題となっているが、飯田市ではフィールドへ出ていく講座はどうなっているか。総合博物館では養川コーナーが活用されているが、飯田市ではどうなっているのか。
石森委員	資料を見ると、飯田市のプログラムやメニューは充実している。現実にこのメニューがフィットしているか。
浜委員 茅野委員	友の会が実地調査をしている。美術博物館の職員が、友の会に入会して活動している。活動は、年3期か4期に分けて活動している。
沖野部長 花里委員 北沢副部長	友の会が一つのキーになっている。子供が参加して事故にあったらどのように対応しているのか。おそらく保険を掛けていると思う。友の会は独立している団体である。友の会が博物館べったりだと、博物館が大変になる。
沖野部長 北沢副部長 鵜飼文化財課長	美術博物館の友の会はもともと教育委員会で行っていたのではないかと。もともと先生達の同好会だった。先生達を中心に活動している。博物館が友の会事務局だと大変だ。
沖野部長 鵜飼文化財課長	友の会が中心となって研究会を行っているのか。現地調査は友の会の人たちがやっているようだ。
沖野部長 小池委員	茅野でそのような団体はあるか、ミヤマシロチョウの会がそうだ。拠点は八ヶ岳総合博物館で活動している。飯田市は伊那谷自然友の会を上手く利用している。友の会を利用すると、外に出やすくなる。
沖野部長	飯田市に市民研究員がいるが、講座に出たり研究した後には資格が出るのか。
鵜飼文化財課長	資格はないようだ。歴史研究所の場合は、論文を提出して、その研究に対して補助金を出しているようだ。その人たちに、お手伝いしてもらおう感じだ。
大谷係長	歴史研究所パンフレットの4ページに、市民研究員についての記載があ

	り、その先には、諸事業に参加して手伝ってもらおうとあるが、市民研究員の活動はそこまで行っていない。
沖野部会長 若宮八ヶ岳総合博物館長 茅野委員	飯田市の事例は参考になる。茅野市と規模に近い長野市の事例はどうか。博物館のプラネタリウムと科学センターがプラネタリウムを共有している。比較的考えていることは今検討していることに似ている。 長野市の科学教育センターは、県から現職の教員が派遣されてきており、ここで先生の研修ができる。
大谷係長	長野市は中核市なので、県と同じ先生の研修ができる。飯田は中核市ではないので、意味合いが違う。
沖野部会長 大谷係長	飯田市は理科教育という感じではない。 飯田市には科学教育に関する施設は他にあり、天竜川総合学習館やかざこし子供の森公園、おもしろ科学工房があり、美術博物館だけで活動しているわけではない。
沖野部会長 北沢副部会長	飯田市は展示方法として新しい方法で行っていたということはないか。 自然関係の展示では、飯田市美術博物館より総合博物館の方が充実している。飯田市は、展示を開館以来変えたことがなく、展示が劣化している。自分の研究はしているが、博物館の運営といえば特別展だけで、常設展については関心がないようだ。そこが残念だ。
沖野部会長	前回と今日で科学教育センターについて話し合ったが、大枠では基本構想の中にある通りだ。新こととしては、市民学芸員をどう作り上げるかや、自然友の会などの団体をどうやって作るか、探すかということである。茅野市としては人材の確保が課題だ。そのあたりでアイデアがあるか。
若宮八ヶ岳総合博物館長 沖野部会長	市民学芸員の育成が一つの課題になるだろう。そのことについては、次回と次々回の会議で協議していただきたい。 市民学芸員が重要である。あとは、学校との連携についてが重要になっている。各学校に再度、博物館担当の先生を作ることが可能かどうかということである。
若宮八ヶ岳総合博物館長	科学教育センターができれば、学校との関連が大きくなっていく。飯田市美術博物館は学校との関連が希薄だったが、八ヶ岳総合博物館では密にしていきたい。また、学校側でも乗り出してきてもらって、プログラムと一緒に作り上げていきたい。このようなことを次回以降話し合っていたいただきたい。
鵜飼文化財課長 沖野部会長	八ヶ岳総合博物館は、学校との関連をととても考えてきた博物館だ。 市民学芸員は、外に開かれた博物館で、市民との協働ができるかどうかにかかっている。
鵜飼文化財課長	他の博物館を見ても、八ヶ岳総合博物館は小・中学校を視野に入れてきた。
沖野部会長	学校で利用するには、岡本委員が言うように、交通手段と学習指導の中にどう組み込んでいくかが問題である。
石森委員	理科教育センターの中を見ていると、単位数を規制している。教育委員会が指示している。
沖野部会長 北沢副部会長	教育委員会が指示しないと、勝手に先生達ができない。 学校が博物館に来るとなると、この学習はどうしても博物館でやるんだということにしなければならない。

若宮八ヶ岳総合博物館長	石森委員が今資料を読んだように、必ず茅野市の学校は1日ここへきて勉強するというプログラムを用意して、学校の希望によっていくつかの選択肢を作って、1日博物館授業というのをやりたい。
北沢副部長 岡本委員	総合的学習の一つとして行えばよい。 茅野市が力を入れている図書館を利用した調べ学習というのをやっている。学校の学習はインプット型だが、今求められているのはアウトプット型の学力である。しかし、教員の多くはアウトプット型の学習が苦手である。あまり経験しておらず、理科学研究の仕方について教師に問題がある。可能性として考えられるのは展示物に関する課題を設定して、論理のプロセスを構築するような学習をこの博物館に期待する。
北沢副部長	そのとおりである。この博物館では、科学する喜びを体験させることを期待する。そのためにどのようなキットを用意するなどが重要になってくる。
浜委員	理科の対象が自然そのものだ。なかなか触れられないものを博物館へ行って学習する。博物館の展示物を使って授業をする。直接見た方が感動がある。そのようなものに応えられる博物館がいい。
沖野部会長 北沢副部長	そのような習慣をつけるためにまず来てもらわなければならない。 アメリカには博物館学習がある。そのためのカリキュラムがある。そこで体験して学習する喜びを感じるということが重要である。
沖野部会長 花里委員	それをやるにしても、先生との交流が必要だ。 飯田市と茅野市が違う所は、自然に触れたいと思う観光客が来館することで、観光客も利用することを考えた方がよい。それが、全国的に見ると八ヶ岳総合博物館の特色である。それで観光客が増加すればよい。そして、学習会員になってもらえばよい。
沖野部会長	それがエコツーリズムなのだろうが。エコツーリズムの茅野にあったのでは。
小池委員	私はエコツーリズムの歴史文化委員を勤めているが、講座として3年間で13回開催しているが、しっかりと目的を持って活動している。埋もれている歴史文化を掘り起こしている。茅野は埋もれている文化財が多い。お寺と文芸や、歴史と自然を合わせ活動している。
沖野部会長 小池委員 鵜飼文化財課長	それはどこで活動しているのか。 市と商工会議所、観光連盟で活動している。 その3者で協議会を作り、色々な委員会がある。しかし、これらのグループの横のつながりがない。その周りを案内するのがというのがあがあるが、やる人がいない。その育成が期待されている。そのための勉強会が始まる場所である。
沖野部会長	それを市民学芸員がやればよい。勝手にやる人がいると間違えるので、その元締めを博物館がやればよい。
浜委員 花里委員 鵜飼文化財課長	今、退職した人たちが知識を求めている風潮にある。 宣伝のためにJRに協力してもらえばいいのでは。 できるのではないかと。エコツーリズムも事務局長ができた。産業振興プラザでやっている。体制もしっかりしてきたので、そのような方向へ向かっていくのではないかと。
沖野部会長	その拠点として博物館を位置付けられればよいのではないかと。

小池委員	エコツーリズムは茅野と諏訪地方の人たちを対象にしているが、まず、自分たちの住んでいるところを確認し合うようにしたいということをやっている。国では支援金を出さないが、全国に発信してくれている。
浜委員	エコツーリズムは茅野市民だけではなく、周辺から来るのか。
小池委員	新聞や広報ちので告知するので、郡内の岡谷や富士見の人が参加している。しかし、茅野市民が大部分だ。
沖野部会長	このまとめは市民学芸員の話につながっていくので、ハードのことは基本構想を修正すればよい。学校教育との連携が重要になっていく、また、外に向けては、市民学芸員を利用して活動していく。
大谷係長	前回の協議で、小・中学校の現状を見てみたいということがあったが、視察は岡本委員と協議し可能だとのお話を聞いている。希望があれば次回以降、専門委員会で行いたい。
沖野部会長	学校の施設を見たいということで、教室の授業を見るのが目的ではないので、視察は何時でもよい。
浜委員	先生達の博物館に対する生の声を聞きたい。
岡本委員	各学校・各学年の引き継がれた考え方、形はあるが、狙いが継承されていない。目的を明確にするのが一つの課題。
沖野部会長	見学は急ぐ必要はない。機会があればということ。次は市民学芸員について集中的に協議したい。市が母体となる団体があれば調べてもらいたい。
	その他、委員から特に質問、意見等はなく、審議を進めることで了承された。
	5 次回以降の開催予定 11月15日(木) 午後6時～・12月6日(木) 午前6時～・12月20日(木) 午後6時～ で、計画し、12月6日に小中学校の理科室の視察を計画することになる。その他、委員から特に質問、意見等はなく、次回日程について了承された。
	～午後8時 終了～